20020

アンギオ室における安全強化を目指した多職種参加型デブリーフィングの取り組み

[1]大阪府立急性期・総合医療センター

櫻井　正子[1]

【目的】アンギオ室という医療現場においてインシデントは重大な事故に繋がる可能性があり、日々安全な環境を提供する事を重視している。その為、看護師・医師・技師は共に検査前タイムアウトを実施し情報を共有している。しかし、多職種で日々の IVR を振り返る機会がない。そこで、多職種参加型デブリーフィング（以後デブリーフィングと略す）を実施し、三位一体のチームが役割と責任を見直しチーム力が強化する事で、安全な環境を提供する事を目的に取り組みを行った。【方法】1、対象は看護師・医師・技師、計 40 名。2、期間は平成 28 年 1 月 1～31 日。3、デブリーフィングの開催時間は検査の進行状況に合わせ、役割を決め約 15 分間実施する。【結果】1、デブリーフィングの実施率は 100%、参加職種の組み合わせ率は看護師・医師・技師 74%、平均参加人数は 7.7 人、うち看護師 4.3 人、医師 1.3 人、技師 2.1 人であった。2、環境改善の発案された件数は４件（１件/週）であった。3、インシデントレポートの件数は１件で、多職種でリスクカンファレンスを実施した。4、聞き取り調査から、コミュニケーションが図り易くなった 80%、チーム力の強化になった 95%と回答が得られた。【結論】1、デブリーフィングを行う事で、コミュニケーションが図り易くなりチーム力の強化に繋がった。2、多職種から様々な意見が上がり環境改善が発案された。3、多職種でリスクカンファレンスを実施、対策を講じ同様のインシデントは発生していない。以上の事から、デブリーフィングを行う事で安全な環境の提供に繋がった。